

若者になぜHIV感染が広がっているのか？ - 性的指向と健康問題 -

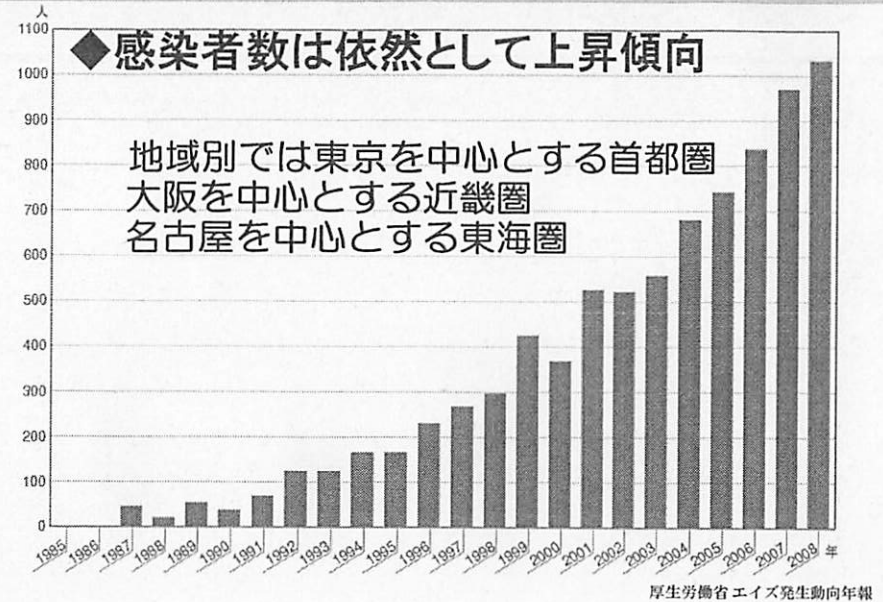
日高 庸晴

宝塚大学看護学部 准教授
厚生労働省エイズ動向委員会 委員

<http://www.gay-report.jp/>
<http://www.j-msm.com/report/report02/y-hidaka@takara-univ.ac.jp>

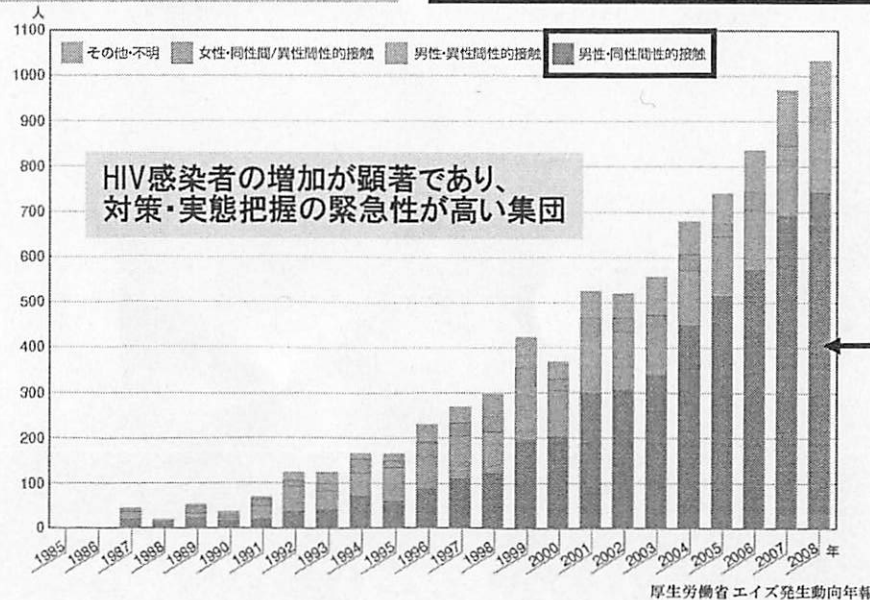
Yasuharu HIDAKA, Ph.D.

日本国籍HIV感染者の年次推移



日本国籍HIV感染者の年次推移 性別・感染経路別

HIV予防対策が最も必要な集団が
男性同性間性的接触者(ゲイ男性)



同性愛 治療の対象外に

精神障害のための診断と統計の手引き (DSM)
Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders

1973年 米国精神医学会はDSM-II から同性愛を削除

1980年 米国精神医学会はDSM-IIIに自己不親和性同性愛を追記

1987年 米国精神医学会はDSM-III Revisedからこの用語も削除

1992年 WHOは国際疾病分類改訂版第10版(ICD-10)の中で、
「同性愛はいかなる意味でも治療の対象とはならない」という
見解を発表。

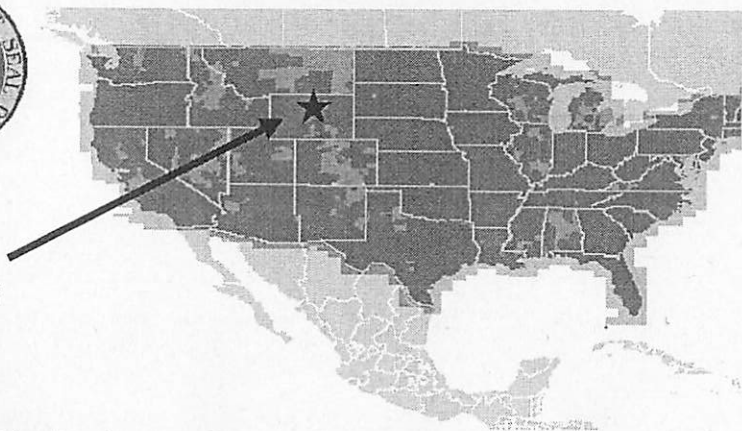
1994年 厚生省がICDを公式基準として採用。

日本では16年前

1995年 日本精神神経学会がICD-10を尊重する見解を発表。

同性愛は治療の対象ではなくなったが、社会的差別や偏見は現存

ワイオミング州ララミーってどこにある町？



Wyoming

Nickname. . . . Big Wyoming, Equality State, Cowboy State
Size. 97,914 square miles, 9th largest state
Population (2000 Census). 493,782

Hate Crime(憎悪犯罪)とは何か？

マイノリティ(少数者)に対して、根拠のない嫌悪や憎悪を持ち、マイノリティの属性に対して暴力、時には殺人といった形で攻撃する犯罪のこと。

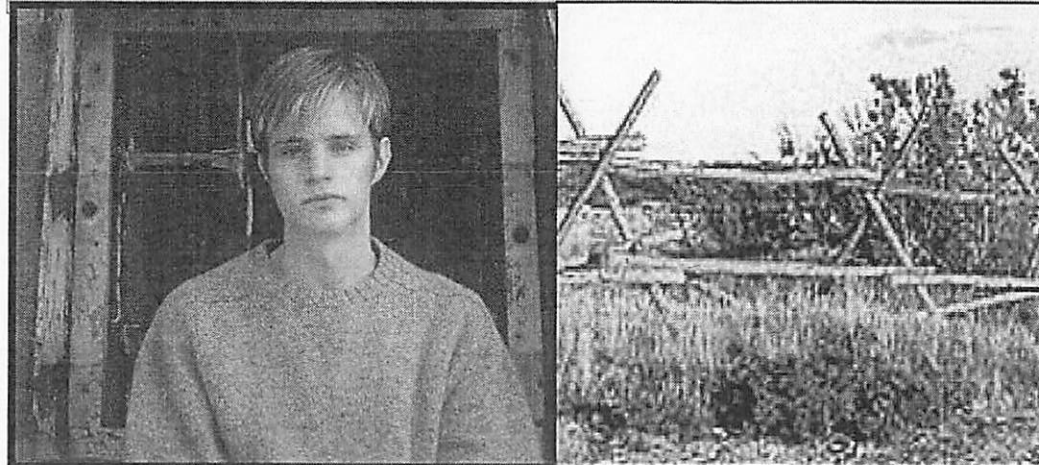
Poll Confirms Hostile Environment for Gay Teens

Hate Crime(憎悪犯罪)とは人種、宗教、性的指向、民族、障害等に基づいた犯罪であり、都市や地域の大きさに関わらず、すべての地域で際限なく起こっている。

Federal Bureau of Investigation (F.B.I.)

Matthew Shepard 1976 - 1998

1998年10月にワイオミング州ララミー町郊外で、ゲイの大学生が残忍な手口によって殴られ、焼かれ、木製のフェンスに縛り付けられたまま、極寒の中18時間も放置された。頭蓋骨はマグナム銃の柄で粉碎され、肌は焼かれ、意識不明の重態に陥った。彼は、ゲイを装った2人の男性に大学キャンパスのバーから連れ出され、暴行を受けた。マッシューから奪った金は20ドルであった。



イランで10代のゲイ男性絞首刑 —同性間の性行為を咎に— 2005年7月



海外の先行研究

社会的ストレス / 少数者ゆえのストレス

- 精神的健康状態が悪い
抑うつや不安傾向が他集団より高い
- 慢性的な精神的ストレス
- いじめ被害経験
- 自殺未遂率
10代の自殺者の3割は性的指向と関連
- 性的被害割合の高さ
- アルコール・薬物使用割合の高さ

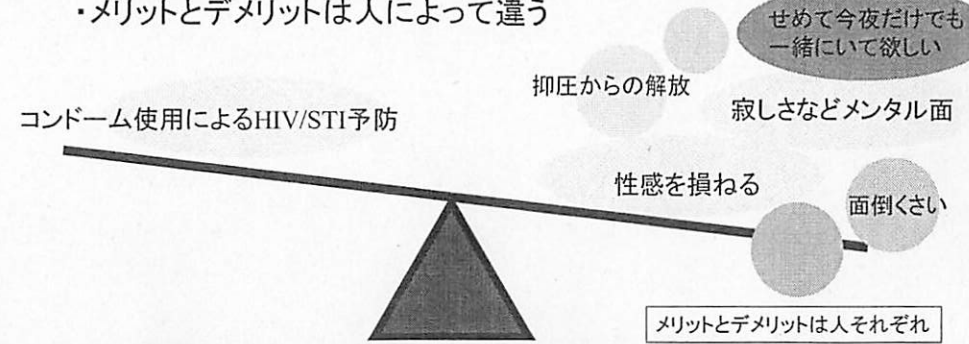
健康に関わる問題が山積み

HIV感染リスク行動の関連要因

- 年齢
 - 抑うつ
 - 自尊感情の低さ
 - 自己否定的な情緒状態
 - 孤独感の強さ
 - 性的パートナーの数
 - 風営施設利用
 - アルコール使用
 - 薬物使用
- など

意志決定バランス

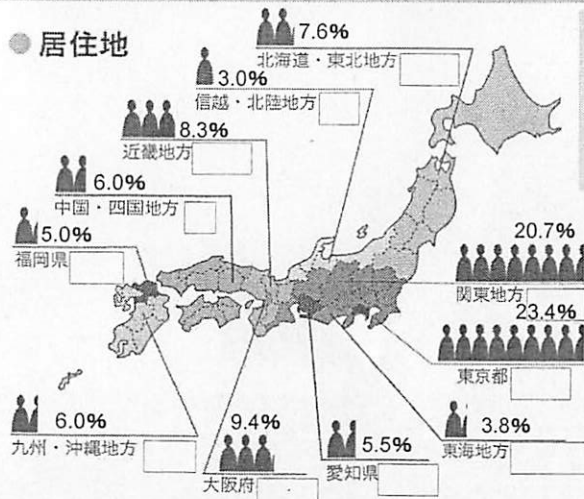
- ・行動変容をすることに対して、メリットとデメリットのどちらを高く（あるいは低く）捉えているか
- ・メリットとデメリットは人によって違う



行動変容しやすい人、行動変容しようと思っている人を
先ず最初に、重点対象とした予防介入の実施も必要。

過去最多の研究参加者数

パナー広告 73.5%、mixi 9.7%、その他 13.2%



REACH Online 2005 参加割合 7.5% (473人)
REACH Online 2006 参加割合 6.9% (434人)

総回答数 6,776件

有効回答数 6,282人

平均年齢31.5歳 (13歳-83歳)

10代	6.5%	自認する性的指向	
20代	39.6%	ゲイ	69.0%
30代	35.6%	バイセクシュアル	24.7%
40代	13.0%	判らない	2.2%
50代+	4.9%	決めたくない	2.8%

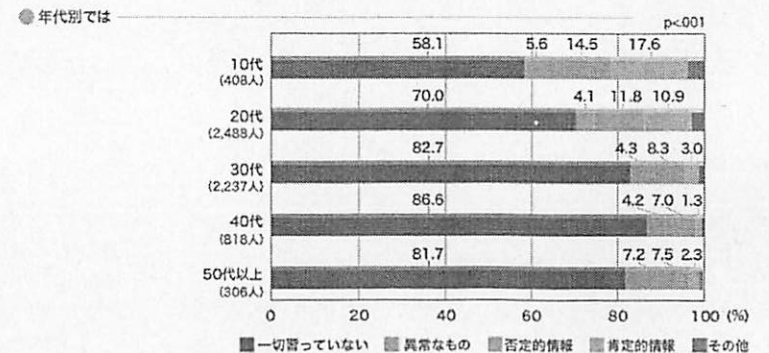
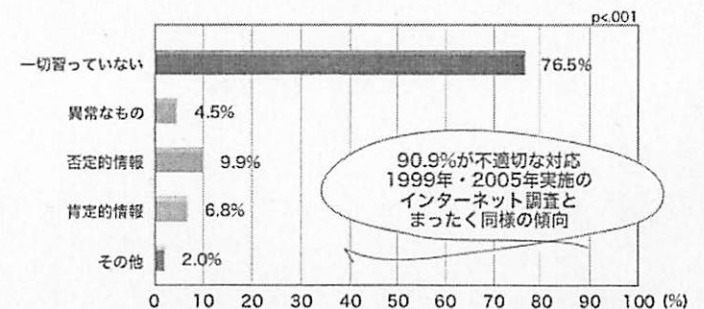
学生	16.7%	恋人がいる	41.6%
無職	4.8%	セフレがいる	33.5%
社会人(フルタイム)	61.3%		
社会人(パートタイム)	10.0%		

過去1年間に海外旅行をした 26.2%
→旅先で知り合った男性とセックス 23.5%

学歴
大学卒以上 55.3%

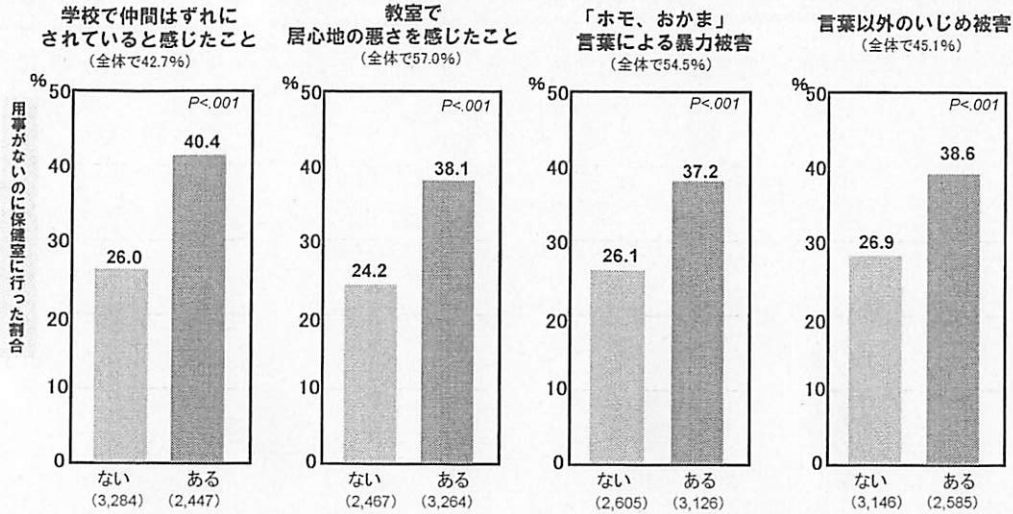


教育現場でのセクシュアリティ教育や同性愛に関する情報提供の圧倒的不足



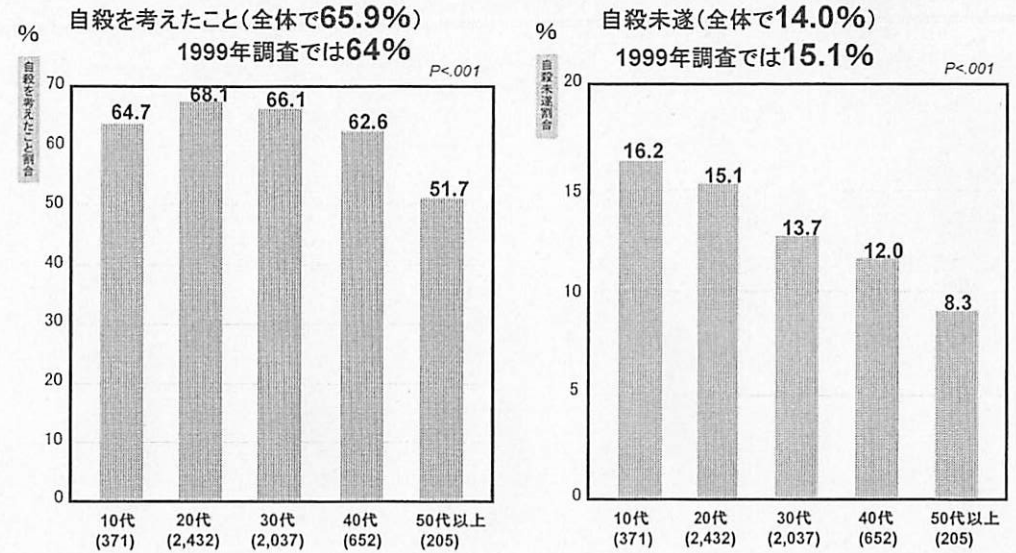
教室での出来事と保健室 避難場所としての保健室

いじめ被害割合 82.7% (最高値)、性的指向関連言葉の暴力被害割合56~66% 有効回答数=5,731



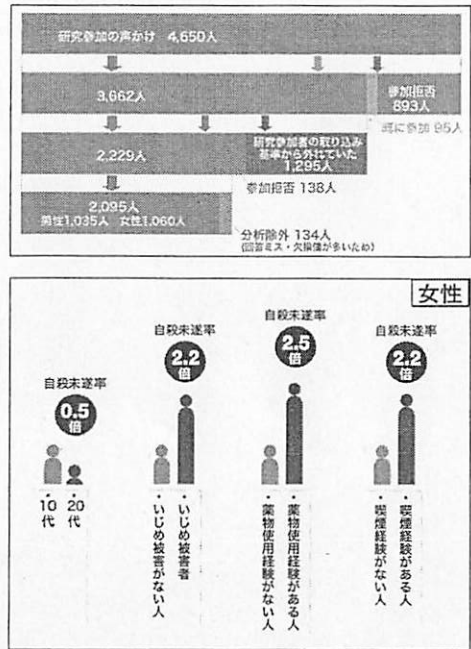
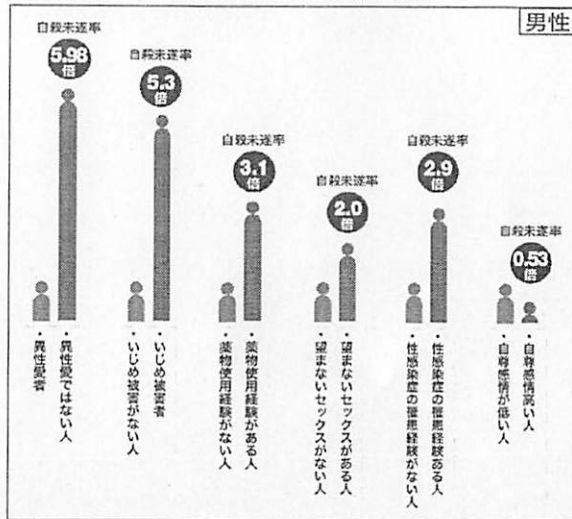
これまでに自殺を考えたこと・自殺未遂

有効回答数=5,731

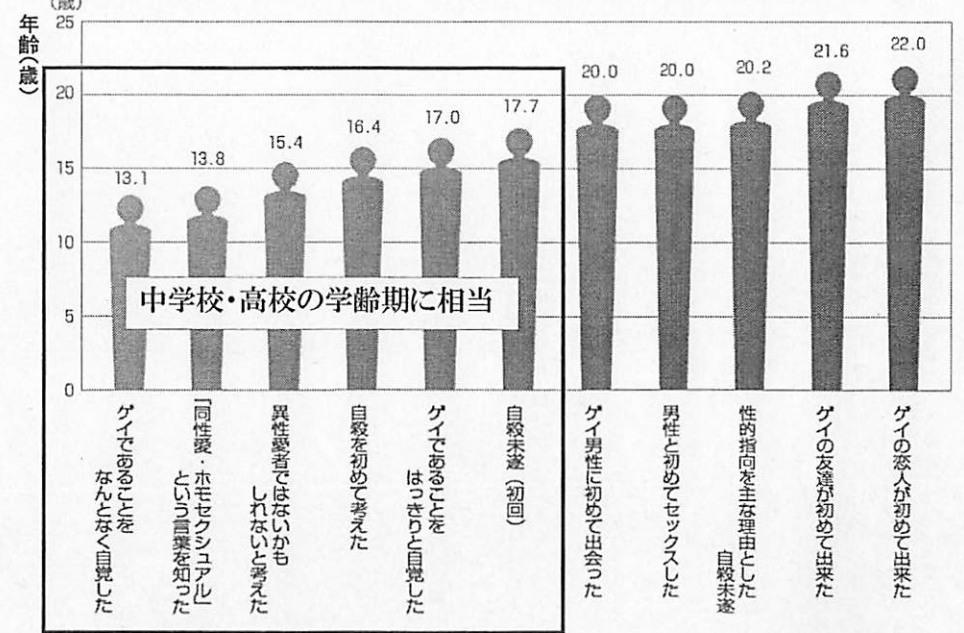


HIDAKA, Y

自殺未遂経験に関連する要因



思春期におけるライフイベント平均年齢 (研究参加者数 1,025人)



Hidaka Y, Operario D, Takenaka M, Omori S, Ichikawa S and Shirasaka T (2008) Attempted suicide and associated risk factors among youth in urban Japan. Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology DOI 10.1007/s00127-008-0352-y

異性愛者的役割葛藤

異性愛者を装う時に感じる 心理的葛藤や苦痛

異性愛を中心とする社会の中で、ゲイ/バイセクシュアル男性が、異性愛者を演じる時や異性愛者を装う時に生じるストレスのこと。

同性愛をスティグマ化する社会において、多くのゲイ男性は、自らの性的指向を知られてしまうことがないように、「異性愛者」として振る舞い、「異性愛者役割」を担い、それを演じることによって周囲に受け入れられるように奮闘する。

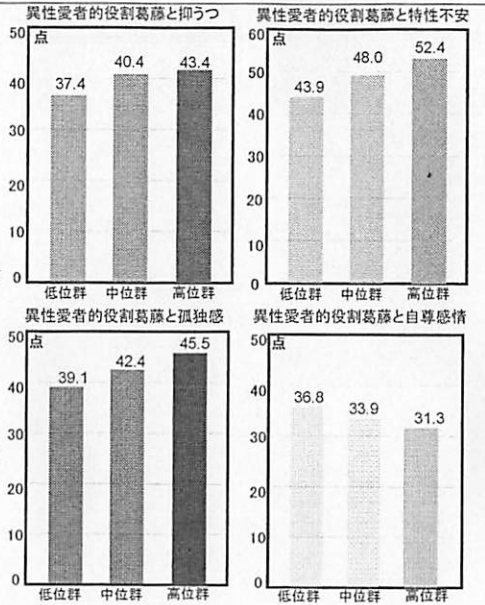
➡ **ゲイであることを隠さないとやっていけない**

この「異性愛者」の役割演技は、自らの欲求を抑圧した行動であり、葛藤と苦痛を伴う作業であると考えられる。

異性愛者的役割葛藤尺度

- ① 結婚話をすすめられたとき
- ② 孫の顔が早く見たいと言われたとき
- ③ 彼女いないの?と聞かれ、適当に話を合わせているとき
- ④ テレビのホモネタを見て、周囲に合わせるとき
- ⑤ 彼氏のことを彼女に置き換えて話しているとき
- ⑥ イけている男性を見て、「この人格がいい」と友達の前で言えないとき
- ⑦ ゲイの交友関係のことを気軽に話せないとき
- ⑧ 彼氏とおしゃれなレストランへ行き、周囲の目を気にするとき
- ⑨ ゲイ雑誌を堂々と買えないとき
- ⑩ 「男は強たくましくあるもの」という考えを聞かされたとき
- ⑪ 低い声で「男らしく」話しているとき
- ⑫ 女の子に囲まれ、「両手に花だね」と言われたとき
- ⑬ 女性から好きだと言われ、嘘をついたり話をそらすとき
- ⑭ 興味がない女性のことを、興味があるような言い方を自分がしているとき
- ⑮ 女性が接待してくれるお店に「付き合い」で行くとき

異性愛者を装う時に感じる葛藤や ストレスの頻度を測定

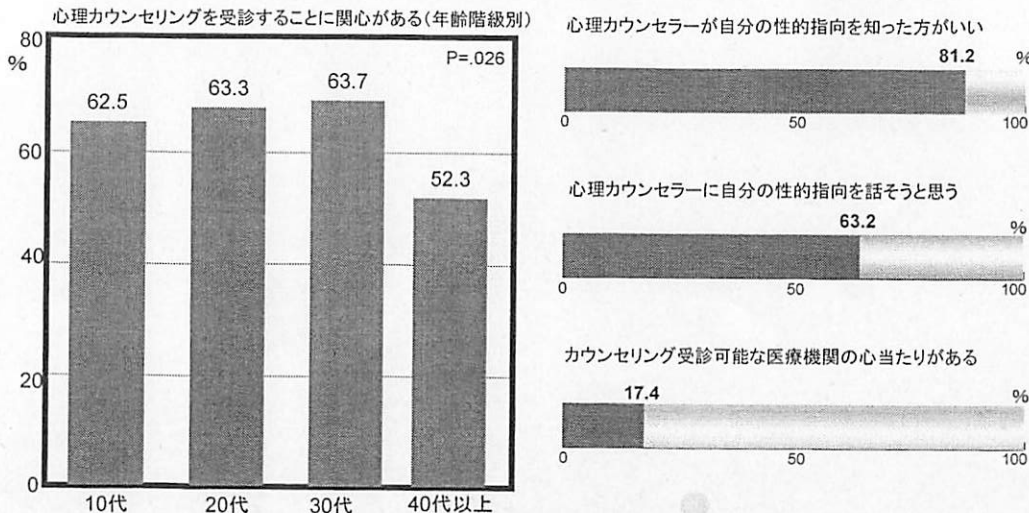


思春期学, vol.18(3) 264-272(2000)

心理カウンセリングのニーズ

2003年調査
2,062人

62%(1281人)が自分が受診することに**関心あり**

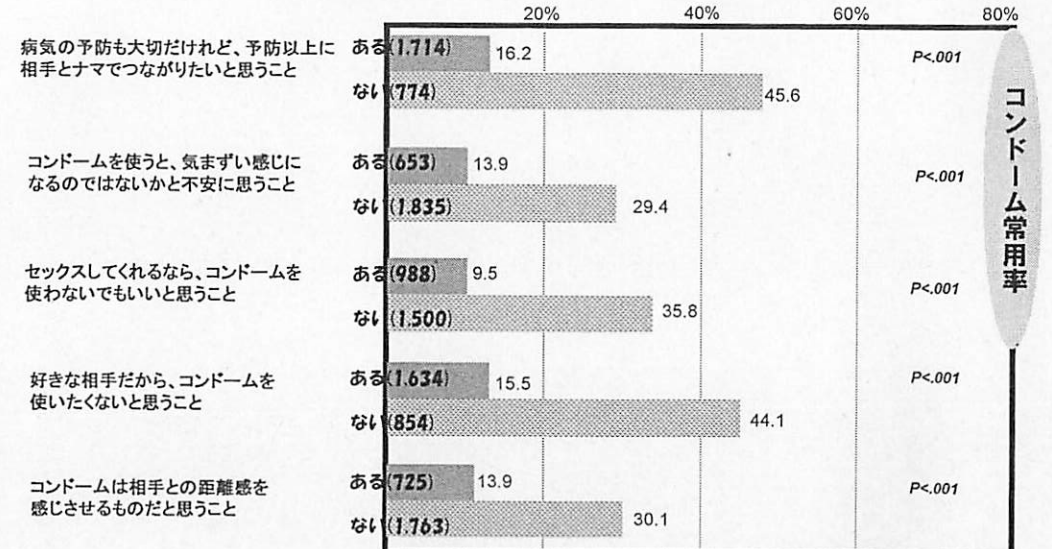


SPIRITS@Wave 2
Sexuality, Psychological, and Identity Related Issues Targeted Study

過去6ヶ月間のアナルセックス経験者における セックスに投影される心理とゴム常用の関連

2005年調査

分析対象数
2,488人



同性愛の話、MSMのことは「あまり扱いたくないなあ」 ～もしそんな風に感じるものがあたら～

- どうして扱いたくないテーマなのか考える
- 扱いたくないと思う自分自身について考え、問いかける
- 扱うことが出来そうになれば無理をしない
- 心理職などと連携する

性や同性愛のことを避けずに向き合うこと

1人でも嫌な思いをして帰ると、
『あの保健所は対応が悪い』と口コミで広まってしまう
差別の代償経験

安心して話すことができるためには

対人援助職からも男性受検者の誰がゲイ男性なのか分からない

彼らにとっても、誰が自分たちの本当の理解者となってくれるのかわからない

“性的指向を言ってくれないから” “話してくれない” と、受検者を責めない

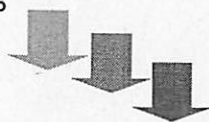
性的指向を知らなければ支援できないのではなく、性的指向を言いやすくする状況を作る努力自体が、すでに支援である

専門職としてサポートしますよ！というメッセージを出すことが重要！
彼らの多くは専門職からの援助を求めています

健康レポートの最後のページ「対人援助職への提言」

ヴィクティム・ブレイミング [犠牲者非難]

健康問題の発生を「自業自得」とする健康の自己責任論では、日常生活行動を自己管理しなかった責任を病者自身が問われる、ヴィクティム・ブレイミング [犠牲者非難] が生じやすい(朝倉 2001)。

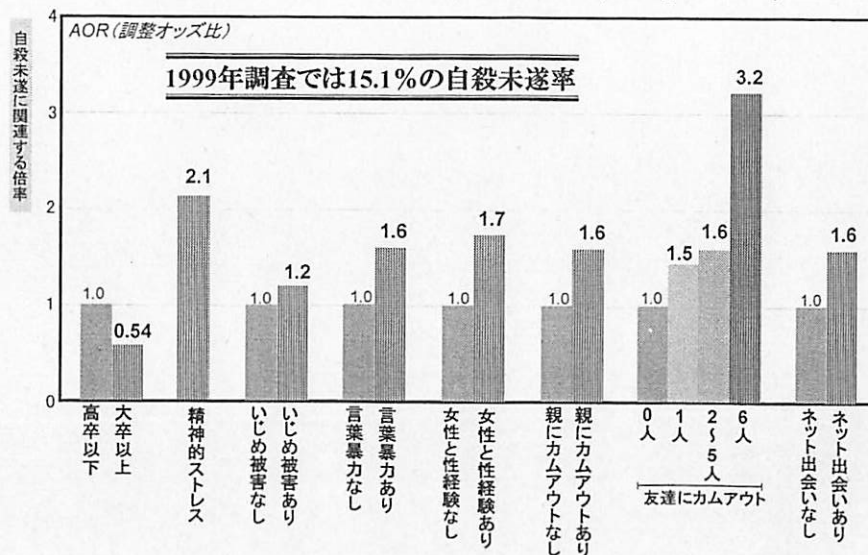


罹患した疾病の原因とされる行動が、社会の多数派によって規定された正常の基準から外れているほど、その可能性は高まる(Ryan W 1971)。

自殺未遂に関連する要因

有効回答数=1,025

Hidaka Y & Operario D, Journal of Epidemiology and Community Health 60: 962-967, 2006



同性・両性愛の男性6千人調査

14%、自殺未遂経験

ゲイ(同性愛の男性)とバイセクシュアル(両性を愛する)の男性の約半数が学校でいじめに遭い、3人に2人は自殺を考え、14%は自殺未遂の経験がある――。京都大学大学院医学研究科の日高爾晴客員研究員らが実施し、約6千人が回答した大規模な調査で、こんな結果が出た。

調査は、国の補助を受け05年8～11月にインターネットを通じて実施。ゲイのサイトや雑誌で参加を呼びかけ、男性と性経験があるという6千人以上から回答があり、「冷やかし」や重複を除いた5731人を有効回答とした。8割が20～30代で、ゲイが68%、バイセクシュアルが26%、ほか「わからない」など

だった。

学校で「ホモ」「おかま」といった言葉浴びた人は55%、言葉以外のいじめを受けた人は45%いた。心の健康状態を医学的な質問を通じて測ったところ、若い世代ほど抑うつ度が高く、自尊心が低かった。

同性愛について、約8割は学校で一切習ったことがなく、15%は否定的情報か「異常なもの」との教育を受けていた。

エイズウイルス(HIV)感染について、男女間の問題だと学校で教わった人が47%だったのに対し、男性間の問題と教わった人は11%。最近の国内の感染者の約6割は男性同士の性的接触によるとされ、学校で正確な教育を受けていない状況も浮かんた。

日高研究員は「強い偏見を受けて自分を肯定できず、自暴自棄的な感情を持つことが、コンドームをつけるなどのHIV感染予防を消極的にさせる面がある」と指摘。性的指向の違いを否定的にとらえない指導や、教師らへの教育、教材の見直しなどの対策を訴えている。

調査結果はホームページ(<http://www.gay-report.jp/>)10月から公表中。



「自殺未遂」若者に調査

大阪・ミナミのアメリカ村で15〜24歳の男女約2千人に自殺未遂をした経験の有無などを聞いたアンケート結果を関西看護医療大学の日高庸晴講師（疫学）らがまとめ、ホームページに公開した。いじめに遭った経験や薬物使用の有無、同性愛かどうかなども尋ねて関連を調べた。若者に対するこうした調査は珍しく「自殺予防に役立てば」としている。

（斎藤利江子）

アンケートは若者が集まるアメ村で01年8〜9月に実施。対象は、近畿在住で、性経験があり、月に1度はアメ村に来る人。声をかけた4650人のうち、2095人から有効回答を得た。厚生労働省のエイズ予防研究の一環で調査した。

「自殺未遂をしたことがありますか」との問いに、男性（10035人）の5.6%、女性（10660人）の11.4%が1回以上あると答えた。全体では9%だった。

男性では、いじめ被害に遭ったことのある人は被害を経験していない人に比べて自殺未遂率が5倍、薬物使用経験のある人は、ない人の約3倍だった。また異性愛でない

「予防に役立てば」

と答えた人は男性全体の約5%おり、異性愛と答えた人よりも自殺未遂率が高かった。女性でもいじめ被害や薬物使用との関連性がみられた。

日高さんは「性的指向と未遂の関連は欧米では指摘されてきたが、日本ではデータがなかった。見落としがちだが、教育現場などでの配慮が必要だ」と指摘している。

自殺予防や遺族支援に取り組むNPO「ライフリンク」の清水康之代表は「実際に未遂歴を尋ねたデータは珍しく、今後の防止に役立つのではないかと話している」。

ホームページ：<http://www.health-issue.jp/suicide/>